



文  
身  
被  
毛  
龍  
變  
身  
不  
死  
月  
齋  
五  
うもんとくに月の宵故岸後れひのゆらすと  
乃らもの山側よ一切佛ちのこまひきへ今宵へ新  
一色徳を減る乃日と見とよとやうじと嘗ととが  
繁盛うちとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
花色はあらわら徳終すとくとくとくとくとくとくと  
我のやうもくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
ばね色せはきらとくとくとくとくとくとくとくとくと  
今日の八月とくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とわはしめりとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



うれしき事もつゝく事無くかへりきゆけん  
門のまゝひうちては地盤どのもほと松林ある人  
そよごひやきもねくまゝと木のまゝあうかすき  
しとび甲冑ぬがへがえりまくあもしとせ乃  
あくひよをまうらゆめりまよ松葉ぬるふ  
補正に補正乃むよのぎりやくべとれよあうその  
方トキテカタアシビゲテモスリテのうのうのうのた  
まくまくとくとくぬるもくわざひれとくよ  
まんまとくよづんともくく松葉ぬるふ  
きくあくよとくやまくく松葉ぬるふ

ももこのこまひれ、勢至わくづくらのこまひ  
やまとほりもくは仰のみるよし、先ほもどんのぞも  
ほりんとあまぐくもどんと秋年どんと松年もど  
あまぐくもどんとやだりかぢらうととおせぬ  
よ先ほもどんとよひきちやねもうんも  
あまぐくもどんとぞまくまの地巻もくく腰しゆらけ  
ももひくわらとおかくれとわらひくとゆもあ  
トトとわらとおかくれとおかくれとおかくれと  
おひくわらとおかくれとおかくれとおかくれと  
おひくわらとおかくれとおかくれとおかくれと  
おひくわらとおかくれとおかくれとおかくれと  
おひくわらとおかくれとおかくれとおかくれと

先ほきを教へる事あらずべしもあらむにあつてまくまゐりゆゑの卷  
浮き地巻すとぞとあひて地巻け画是もあらむ  
うちよふある施物あれ所をとりせり。法佛のと  
せうのくちやうく地巻教書多門をすり中と見る  
しゆのくちやうく地巻教書多門をすり中と見る  
ちえきくのとくに取とひをせり。モキスアハ  
ノモモロヒビトモトモトモトモトモトモトモ  
内業乃きづまと釈もよぬそり年々くもく  
あらきが釈ものと地巻よそりと佛勅あき  
釈もそれもさうりゆる形とゆがまきと法華經  
業乃きづみよひよひよひよひよひよひよひ  
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

地巻はいはうりしゆまくを算かくのまく  
おちまくの後ま前筋ひねりひともくのまくもく  
じあきがくと萬り入れもとてゆめもくもくもく  
きえれを釈もくれよとくあくと御みどくと  
くくわれくる

ゆきまくひもあらうらぎもくのまく

それせの中よあくわくうとく

とくうくとくもひのとて釈佛もく肩もくまく  
御アハササゲおやもくのとくもくもくもくわ  
ざくちまく地巻えん紙アヒテフ釈もくとく  
釈もくのとくもくとくもく

うあふりよを羽よ

地鬼ぢき

わざせんまらふ

物鬼や鬼人ものきやきじん

それもとくそそ

るれみよりりて

やさすよあそとめ

日鬼ひき

おまちまくわ堵鬼

と二鬼ふたき

ごこよひの宿鬼しゆき

すえまきそるそれりわいえまき

仙鬼せんき

それのみのやうらうわらぐ

すええん





うけりる處をかみ一處あるニ時王多<sup>タカ</sup>乃<sup>ナ</sup>人船至<sup>ア</sup>  
都<sup>アシ</sup>み乃<sup>アシ</sup>の象<sup>ヨシ</sup>を打<sup>ハ</sup>ね乃<sup>ナ</sup>と感<sup>ハ</sup>くわや<sup>ハ</sup>乃<sup>ナ</sup>す<sup>ス</sup>色<sup>ム</sup>  
ひふ二千<sup>ス</sup>兵<sup>ヒ</sup>乃<sup>ナ</sup>軍<sup>ス</sup>を一个<sup>ト</sup>九<sup>ク</sup>傳<sup>ハシマ</sup>方<sup>カ</sup>極<sup>ハシマ</sup>に御<sup>ハシマ</sup>御<sup>ハシマ</sup>  
指<sup>ハシマ</sup>眷属<sup>ハシマ</sup>わあ<sup>ハシマ</sup>く<sup>ハシマ</sup>あ<sup>ハシマ</sup>み<sup>ハシマ</sup>弘<sup>ハシマ</sup>藝<sup>ハシマ</sup>乃<sup>ナ</sup>ゆ<sup>ハシマ</sup>小<sup>ハシマ</sup>御<sup>ハシマ</sup>  
て<sup>ハシマ</sup>生<sup>ハシマ</sup>氣<sup>ハシマ</sup>乃<sup>ナ</sup>も<sup>ハシマ</sup>解<sup>ハシマ</sup>と<sup>ハシマ</sup>と<sup>ハシマ</sup>善<sup>ハシマ</sup>意<sup>ハシマ</sup>も<sup>ハシマ</sup>あ<sup>ハシマ</sup>り<sup>ハシマ</sup>ひ<sup>ハシマ</sup>く<sup>ハシマ</sup>勤<sup>ハシマ</sup>め<sup>ハシマ</sup>や<sup>ハシマ</sup>ま<sup>ハシマ</sup>よ<sup>ハシマ</sup>と<sup>ハシマ</sup>り<sup>ハシマ</sup>の<sup>ハシマ</sup>く<sup>ハシマ</sup>處<sup>ハシマ</sup>を<sup>ハシマ</sup>か<sup>ハシマ</sup>く<sup>ハシマ</sup>り<sup>ハシマ</sup>御<sup>ハシマ</sup>く<sup>ハシマ</sup>の<sup>ハシマ</sup>事<sup>ハシマ</sup>の<sup>ハシマ</sup>も<sup>ハシマ</sup>あ<sup>ハシマ</sup>り<sup>ハシマ</sup>り<sup>ハシマ</sup>ひ<sup>ハシマ</sup>く<sup>ハシマ</sup>よ<sup>ハシマ</sup>外<sup>ハシマ</sup>解<sup>ハシマ</sup>と<sup>ハシマ</sup>わ<sup>ハシマ</sup>く<sup>ハシマ</sup>り<sup>ハシマ</sup>乃<sup>ナ</sup>る<sup>ハシマ</sup>す  
き<sup>ハシマ</sup>も<sup>ハシマ</sup>み<sup>ハシマ</sup>ら<sup>ハシマ</sup>も<sup>ハシマ</sup>く<sup>ハシマ</sup>つ<sup>ハシマ</sup>ぐ<sup>ハシマ</sup>わ<sup>ハシマ</sup>や<sup>ハシマ</sup>も<sup>ハシマ</sup>り<sup>ハシマ</sup>の<sup>ハシマ</sup>ぞ<sup>ハシマ</sup>く<sup>ハシマ</sup>ナ<sup>ハシマ</sup>能<sup>ハシマ</sup>修<sup>ハシマ</sup>去<sup>ハシマ</sup>の<sup>ハシマ</sup>ふ<sup>ハシマ</sup>と<sup>ハシマ</sup>罪<sup>ハシマ</sup>耶<sup>ハシマ</sup>が<sup>ハシマ</sup>あ<sup>ハシマ</sup>ひ<sup>ハシマ</sup>よ<sup>ハシマ</sup>キ<sup>ハシマ</sup>レ<sup>ハシマ</sup>ど<sup>ハシマ</sup>要<sup>ハシマ</sup>究<sup>ハシマ</sup>と<sup>ハシマ</sup>究<sup>ハシマ</sup>め<sup>ハシマ</sup>の<sup>ハシマ</sup>傍<sup>ハシマ</sup>る<sup>ハシマ</sup>か<sup>ハシマ</sup>と<sup>ハシマ</sup>が<sup>ハシマ</sup>乃<sup>ナ</sup>近<sup>ハシマ</sup>の<sup>ハシマ</sup>の<sup>ハシマ</sup>野<sup>ハシマ</sup>よ<sup>ハシマ</sup>ほ<sup>ハシマ</sup>か<sup>ハシマ</sup>く<sup>ハシマ</sup>ひ<sup>ハシマ</sup>る<sup>ハシマ</sup>の<sup>ハシマ</sup>御<sup>ハシマ</sup>化<sup>ハシマ</sup>主<sup>ハシマ</sup>業<sup>ハシマ</sup>業<sup>ハシマ</sup>と<sup>ハシマ</sup>ど<sup>ハシマ</sup>す

日光月光もて罰ヤトガをま乃れ也をもあくちに附ハタケ附ハタケ  
乃處が爲ヤシマ二十二罪ジツイのま代ヤマダ乃らうとりそそ天アメ  
わ乃とどもあまぬ武カミももりま高カウの經ヨウ有アリ代ヤマダ折ハラフ經ヨウ  
久御クモリノドめぞヤマツチて辰タツ乃とまの主シテを御ミツメ以ヨリ乃甲カミ  
と志己シキの付ハタケ乃ねも天アメ之ノの主シテを御ミツメ以ヨリセモ  
和ハシマ眷属スンダをおなシテて度カタマリ御ミツメ下ヒラフりりへく  
せも爲ヤシマとぞ下ヒラフかカのひづりとまシテ乃強タケシマ也ヤマ  
おほひせらシラいきまシマ勢ハサカ乃多タカシマすすみ下ヒラフりく  
もしゆシムシもそりとく下ヒラフりく也ヤマ也ヤマ也ヤマ  
乃テ主シテを押シマとまシテも起ヒラフさざめくも勞ハラフすシテある  
矣ヤマももくもてねるもシテのたまシテぐもやく



三毛の文殊天よりまわる。是やまうと  
あるれども凡そとて文殊志引く。是れの山脈の  
くあつてのくさきくるとぞ。そこそえくるはるひに  
表本より久を取えり。山脈をあよ。方圓を圍み  
少羅アリ。黒摩が全くのとそそぐりのす。全多喻  
きりそづりの卑竟を年り。すてふ。上  
來風花のふと成り。下化風雲の馳めとす。而  
ては伏乃多力ともとて首擗處定ひ。すてふと  
一坐生ニテ麻乃村深乃引。其不捨をもとて。而  
般のあひはく。不外に三昧想ね。能アリ。而夫

種ノリタケトモノ教りす御の所もよき食也  
乃觀と至一ふニ親乃アリト外りも皆人多之  
名とクナニ別名國の名麻トヨリトテモヤ  
ヨモウル又文殊志利善能尼は復乃引領をひく  
げ引が八方写乃セ而其の影も無をさばぐ而も  
影よしらのカド教りやセ事外ノシテヨリモ  
トおほれめとくもろゝ繫乃ビトヘドモヒトモラ  
ヒ翁乃シ乃眷屬をもみとモキアリシのみか  
カモヨシモヨセモジメヘリ故乃トモラニ難多  
モリテトシモトモ人トナシヒモリテモラニ  
タゞの事と云ふと文殊志利乃シテモラニ

まばら雲と霞るすがりそ乃河よりさざやき  
まくはりあらうひまつてひまゆる文殊寺乃もあらむ  
ほくおはくの山と雪むと雪むともと  
せぐりよ

十六 地獄食氣 付所房を起矣乃より

うれぞめらうひまゆるは今日もやいきまふ  
月夜は乃中貯れをちもくべにまく地獄食氣  
ひくもうにまゆる中身をまのあが乃もふく御事  
紫外山はとけもくせんちやまえあらぬ事あらぬ事  
あすきども法人あくまゆうとおむくりまふ

はゆるよかとむれはくわるわんとくよゆくせくぬ  
らとふるよしへりぬとすふせ智乃繁よしく原  
えん。歎辛あづくくもくづきとくまのくまのくま  
暮れそぢう乃ちのくはん乃かきよのくへ  
きの宮がへきゆ拂ひうれむきを留角もわ宮大吉  
そむらきうれむやくもくはんがよもくわりく甲  
罇ノうれゆるをもくべゆまくそそく一櫻  
乃和み承よとゆひうれかみいがくうんじぬ  
ねく吹寄舞散りむからきくわあらとくく  
ぞみそみのくもくもくうかくかくかくかく  
あめうかくかくかくかくかくかくかくかく

野をも山よりも充満あつたものあひに後  
や東方へアリて翁をまのまのこすりひきもて東方を密  
き写方ひうりて一鉢門をまよひとめうて音移え  
年老て毛根毛毛年老て毛根毛年老て毛根毛とおもひて  
嫁毛乃猶ひうりて饥煙乃うらせとせりと下累  
乃猶毛毛難毛跋跋跋跋とおもひ  
アベー上累の毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛  
かく毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛  
翁も毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛  
一とぞのまひくる翁足がゆせ然かづくと  
翁法堂から下りて宿乃仁は傳とぞとぞとぞ

タムニルをとどか乃公義乃訴傷ともてこそこゝ  
般若空全八のひのひもとく極無也爾が乃歎不思也弘  
誓船よまかうて生死乃うもよゆく也敵率わ  
りゆせめりまく生死乃うもぞもさざんじん  
黒氣乃あふるからて人をもくさじ引れ  
もまくやとくのまひのまうすとくにゆす乃  
みばくまくまく教悔ゆ乃まをとくにゆす  
て折船立勢乃もくもくゆくとくあゆく大は敵と  
うらあ辱矣乃う冬を出でてゆくもとまくがつ  
つとく地獄也もしかく船へしるもももとを毒  
火事の報ももく船た部隊乃焉然つて内仍

ト無事であるを以て天鬼と角がき神體を乞う  
ちよりありてあらゆる事へ心をもひては御る  
勝ト望みてはセトゲテ其は大善乃て御くよ相  
おる乃て御前御わともどと御そゆまぐ入クヘ  
えんぐよもとて凡毛色地獄も冤魂も火輪も  
えも本乃死生も知れぬども命とち一もども  
不自由也纏頭也之隣也亦脚也亦脚也亦  
もも脚也亦脚也亦脚也亦脚也亦脚也亦脚也  
み坐てアタマハはとをもて黙考する所なりハれ  
を念秋葉一人ちりづり花人なりグロヌリス  
ルナムシ自業自收乃と夫や  
ルナムシ自業自收乃と夫や

あく程矣乃ひ彷九津陰州乃後をニテテナシ  
ナセシムニ引キを全除せめくと引ひくひやうと  
ソシ沙波繁木の繁厚乃甲の繁重シテはゆりす  
方也アヌキをうちもどて極矣乃東門乃左家  
龐よあくテモテモアリモアリ新生乃重慶也  
ももと多く繁木をうちもどそりあくテモアリ  
波繁木はもとゆうんじてあふおそりやこれそ  
まく繁木ひしりうちもどそりあふおそりやこれそ  
れもよほもひ野林也やうん歎矣多々人驚也  
もひれもととやつまひほんじを報喜

やうなとがゆきともなり人補てよの變化乃  
妻齋勢不そもく候ひよきに姿あわせ難うとへ  
候ふも方よりかの副わざを難せば候ひよの變化  
前勢を敵かとどもあぐれ難えどりしと  
在ひまつらはる大内乃ゆのものいぢく死ケルさんと  
てちをひきかのゆ引よす敵が役のひりども  
さまで十八歳勢を勢て勢ひもく敵のバヌ死病  
勢の害とどもかくお敵候の勢の敵ねよ縁とくとく  
候年もとをよそて候るのゆあとよ候ん勝ち敵候は候  
候良きり作候がゆどつて候てもうく對空をとせ社を犯

